

【稱名寺文書】 武藏

二七五

當寺領信濃國大田庄内大倉郷、下總國埴生庄内山口郷、南栖立村、加賀國輕海郷、因幡國千士師郷等事、任度々寄附狀并元徳元年十二月二日下知狀、可令知行給之狀如件。

建武三年十二月一日

左馬頭 在判

譚上 金澤稱名寺長老

十二月廿七日。光嚴院、壬生匡遠に加賀橋島保等の所領を安堵せしめ給ふ。

【壬生文書】

二七六

主殿寮領

近江國押立保

下野國戸矢子窪田保

安藝國人江保

加賀國橋島保

長門國河内(包力)光保

因幡國々安今島保

紀伊國六十谷加納

壹岐島志原保

伊賀國薦生保

右所々如元知行不可有相違者、院宣如此、仍執達如件。

建武三年十二月廿七日

參議 在判

大夫史殿

延元二年

丁丑

紀元一九九七

建武四年

京都

正月十四日。能登守護吉見賴隆、鳳至郡諸岡寺領に士庶の亂入狼藉を停止せしむ。

【總持寺文書】 鳳至郡

二七七

在判

諸岡寺領已下事

右任先例全寺務、可被致御祈禱誠精(ヲ)、若昔此只、軍勢甲乙人等於致亂入狼藉者、就交名注進、可有其沙汰之狀如件。

建武四年正月十四日

正月十八日。右衛門尉、某の旨を奉じて、鹿島郡永光寺に同寺領羽咋若部保を安堵せしむ。

【永光寺文書】 鹿島郡

二七八

能登國酒井永光寺領同國若部保事、全知行之、可被致御祈禱誠由所候也、仍執達如件。

建武四年正月十八日

右衛門尉 在判

永光寺方丈

四月廿一日。足利尊氏、仁木義有の勳功を賞して加賀郡小坂莊大志目村の地頭職を與ふ。

【仁木文書】 攝津

二七九

袖判

下 仁木彌太郎義有

可令草領知攝津國井於新庄、越後國松山保右馬權頭、義時跡

加賀國小坂庄内大志目村海老名五郎左衛門尉推則跡地頭職事

右以人為勳功之賞所宛行也者、守先例可被沙汰之狀如件。

建武四年卯月廿一日  
(大志目村は今の犬養免村なるべし。)

四月廿八日。足利尊氏、山城眞如寺正脈庵に加賀郡大野莊藤江村・松村をその造營料所として寄進す。

【臨川寺重書案文】 山城

二八〇

加賀國大野庄内藤江・松村兩村事、依御辭退、被寄進正脈庵造營料所候、於所殘者、一回爲當寺領可有御管領候也、恐惶謹言。

建武四

尊氏 在判

四月廿八日

臨川寺方丈

五月十八日。足利尊氏、加賀守護富樫高家をして加賀郡笠野南方地頭職を田村教俊に交付せしむ。

【保坂文書】 武藏

二八一

加賀國笠野南方名越遠江前司息女跡地頭職事、任御下文、可被沙